



本年4月、福井工業大学の第11代学長に掛下知行学長が就任しました。  
その掛下学長がキャンパスを飛び出し、「若者の夢」「地方創生」「大学間連携」  
「産学連携」などをテーマに、各界のゲストとクロストークを展開。  
ゲストと共に、若者、地域へ熱いメッセージを贈ります。



若者たちには、  
「ファーストペンギン」\*  
になろう」と  
伝えたいですね。

\*群れの中から、最も早く飛び出し、1羽のペンギンこと。  
「開拓者」「リーダー精神にあふれた人」などを指す。

福井工業大学  
学長  
掛下知行

株式会社GHIBLI  
代表取締役  
坪内知佳氏

私たちも人材育成教育で、  
ファーストペンギンや、  
地方創生を育んでいます。

なるほど、

人口700人に満たない日本海沖の島、山口県萩市大島で、  
一人の女性が「奇跡」を起こしました。  
その女性とは、福井市出身でありながら、縁あって萩市に移り住んだ坪内知佳さん。  
彼女の著書のタイトルである「荒くれ漁師たち」を率い、試行錯誤を繰り返しながら、  
その行動力やリーダーシップは漁業関係者だけでなく、  
地方創生や女性活躍の視点からも全国で注目を浴びています。

人材育成教育の  
原点は、

「夢や志を育てる」  
こと。

坪内 坪内さんは萩市大島で大変苦労され、漁業の新たなビジネスモデルを確立されました。その源になったのは著書に書かれていた、「美しい日本の刺し盛り文化を50年後も守りたい」という大きな夢であり高志だったのではないのでしょうか。福井工業大学はそんな若者の夢を応援するところにも、「地域産業に貢献する人材づくり」を教育の柱としていることから、ぜひ第1回のゲストにお呼びしたいと思っていました。

坪内 ありがとうございます。「島の漁業や刺し盛り文化を守る」という夢は、漁獲高の減少に悩んでいた、萩市大島の漁師たちとの出会いから生まれたこと。それに加えて、化学物質過敏症でアレルギーに悩んでいた私にとって、安全な食を子どもたちの世代に伝えていきたいという思いが大きかった。食の加工(2次産業)や販売(3次産業)が万全でも、生産や水揚げといった1次産業がしっかりしていないと安全は担保されません。そんな志を持ち、農林水産省から6次産業化の認定を受けながら、とれたての魚を詰めた「活鮮BOX」を全国の飲食店や消費者に自家出荷しています。

地方にこそ、  
大きな  
「伸びしろ」  
がある。

坪内 ありがとうございます。夢や志を育むための支援をすることです。そのため私たちがグローバル人材のための英語教育や地域プロジェクトを通じて、学生たちにさまざまな経験を提供しています。まさに坪内さんの夢や志は、たくさんの経験から生まれたものであり、私たちが理想とする人材育成教育のモデルといえます。高校時代まで暮らしていた、福井での経験はいかがですか。

坪内 私が出たのは福井市の中心部です。祖父が実業家であり、近所に経営者の方が多かったことから漠然と「中小企業の経営者として、若い社員と一緒に何かをつくり上げたい」という思いがありました。しかし、高校時代には「客室乗務員(CA)

坪内 私が出たのは福井市の中心部です。祖父が実業家であり、近所に経営者の方が多かったことから漠然と「中小企業の経営者として、若い社員と一緒に何かをつくり上げたい」という思いがありました。しかし、高校時代には「客室乗務員(CA)

坪内 私が出たのは福井市の中心部です。祖父が実業家であり、近所に経営者の方が多かったことから漠然と「中小企業の経営者として、若い社員と一緒に何かをつくり上げたい」という思いがありました。しかし、高校時代には「客室乗務員(CA)

に水平展開することがこれからの課題とお聞きしました。  
坪内 地域ごとに課題は異なり、これまで活用できると思いましたが、地方ごとの良さや伸びしろを生かしながら、漁業だけではなく、農業や林業を含めた1次産業全体の活性化に取り組んでいきたいですね。もちろん、ふるさと福井でも、その挑戦をしていきたいですね。

学びに  
無駄なもの  
はない。

坪内 坪内さんの会社には、大卒者も含め1ターンの若者が入社しているの聞きしました。そんな若者にどんなメッセージを贈っているのでしょうか。  
坪内 「ファーストペンギン」になっ  
てほしい」と話しています。獲物を求めて天敵のいるかもしれない海に泳ぎ出す、最初のペンギンになる。誰かがやればよいと、誰もが思ったら、世の中は決して変わりません。だから「私たち船団丸の役割は、ファーストペンギンになることなのだ」。若者にそんなメッセージを贈ることで、自分にもプレッシャーを掛けているのですが(笑)。

坪内 バランス良く進めるとい  
うのが一番大変です。著書では、漁師以外の仕事をしたいと、漁師さんが箱詰めの作業や営業活動をするのにもなり、随分と坪内さんと衝突したことが描かれています。それでも事業のバランスが保てたのは、やはり夢や志の力が大きかったのでしょうか。  
坪内 6次産業化がスタートした  
のは2011年。東日本大震災が起きた年でした。海や魚を失うつらさを大島の漁師たちは身にしみて知らされたのだと思います。このときに、「二人ひとり海を守り、この地域を担っている」という地方創生の決意を持ったこと、それが大きかったと思います。その後、福島県いわき市の漁師の方との交流もあり、地方創生というビジョンがさらに育てていきました。福井工業大学さんが取り組んでいる、「宇宙」という大きな夢も素晴らしいですね。

坪内 福井工業大学では、ふくいのPHOENIXプロジェクトに加えて、若狭町と連携して取り組んでいる漁村体験施設「みさきち」など福井県をフィールドに、地域密着型のPBL(問題解決型学習)に取り組んでいます。こうした活動こそ、学生たちが大きな視点で地域の課題を発見し、いざ地域に貢献する人材育成につながるかと考えています。  
坪内さんは、萩市大島で取り組んだ地方創生のモデルを、全国

坪内 まったくそうでもない。私のCAになる夢は病気でとん挫してしまいましたが、留学先で身につけた英語力は無駄なことではないと、そうはありませ  
ん。水産用語を交えた英語力は、通訳兼コンサルタントとして貴重なスキルポイントになってい  
ます。学びに無駄なものはないとい  
うのが実感です。だからこそ若者  
には回り道を恐れることなく、自  
分が「いいな」と思うことを全力  
で追いかけてほしいと思います。

坪内 教育には、無限の力があ  
ります。地方創生の大きな課題  
である、少子化に対応できる人  
材育成も教育で成し遂げること  
ができるでしょう。坪内さんのこ  
う「ファーストペンギン」になる人  
材育成に取り組むながら、地域に  
貢献する大学でありたいと思  
います。本日は、ありがとうございます。

坪内 ありがとうございます。夢や志を育むための支援をすることです。そのため私たちがグローバル人材のための英語教育や地域プロジェクトを通じて、学生たちにさまざまな経験を提供しています。まさに坪内さんの夢や志は、たくさんの経験から生まれたものであり、私たちが理想とする人材育成教育のモデルといえます。高校時代まで暮らしていた、福井での経験はいかがですか。

坪内 私が出たのは福井市の中心部です。祖父が実業家であり、近所に経営者の方が多かったことから漠然と「中小企業の経営者として、若い社員と一緒に何かをつくり上げたい」という思いがありました。しかし、高校時代には「客室乗務員(CA)

対談を終えて  
坪内さんが格闘してきたプロセスは、「人材育成教育」「地方創生」の素晴らしいモデルケースといえます。これは明治維新150年であり、福井からは開国論のファーストペンギンともいえる橋本左内が脚光を浴びています。その「女性・左内」のような着眼点や行動力を、坪内さんに感じました。学生たちにもその力強さを伝えながら、これからも教育を通じて地方創生に貢献したいと思っています。

掛下知行 かけた・ともゆき  
福井工業大学学長、北海道生まれ。専門は材料物性。北海道大学理学部理学科卒業後、同大学院理学研究科修士課程修了。大阪大学大学院基礎工学研究科博士後期課程中退。1993年同大学工学部助教授に就任。2000年同大学院教授となり、低温センター長、環境イノベーションデザインセンター長、教育研究評議員などを歴任。2011年同大学・大学院工学研究科 工学研究科長・工学部長に就く。日本金属学会会長なども務めた。2018年4月から現職。

坪内知佳氏 つぼうち・ちか  
萩大島船団丸/株式会社GHIBLI 代表。1986年福井市生まれ。福井県立福井商業高校を卒業後、名古屋外国語大学英米語学科に進学。結婚を機に山口県萩市に移住。2011年に船団丸の代表に就任し、6次産業化事業を牽引する。2014年に株式会社GHIBLIとして法人化。萩市大島のビジネスモデルを全国に水平展開中。多忙な日々をバツフルにこなす1児の母。著書に「荒くれ漁師をたばねる力」(朝日新聞出版)がある。

対談を終えて  
掛下学長がお話された、「夢の大きさや志の高さの大切さ」に共鳴しました。社員をはじめ講演会などで若い方とお話しをする機会があるのですが、就職のための目的論だけでなく、志やビジョンを育てる教育こそが大切だと考えるからです。そんな学長のリーダーシップのもと、福井の若者たちと共に地方創生のお役に立ちたいと思った貴重な対談となりました。

\*1…水産物の水揚げに加え、食品加工・流通・販売を通連させ、1次産業を活性化すること。1次(漁業)×2次(加工)×3次(販売)=6次産業を意味する。 \*2…成長前の魚の再放流や禁漁期を設けるなど、将来にわたって漁業経営の発展を目指す漁業のこと。